

7

35

東泉圖書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 冊 | 三 | 一 | 七 | | |
| 八 | 五 | 架 | 函 | 屬 | 類 |

譯者貫二校心

譯者貫二校心
道理之世

013728-001-2

7-35

道理之世

多馬・彼因(トウマス・ペイン) / 著

1冊

M9

ABA-0205



7-35

深甫白基譯述
千河岸貫一校正

道理之世

擁海樓藏梓

道理之世序

白基

明治九年圖書局交付

至大而難見至廣而難測者實理也
談天地統萬物豈非大且廣也哉
自古聰明英寸之士學之究之以盡終
身之智力而猶有不及者豈非難見難
測也哉妙中之妙難中之難者心理也已
矣觀近世開明之學大科為四曰教曰政
曰理曰醫此四者上古混之及至近古境

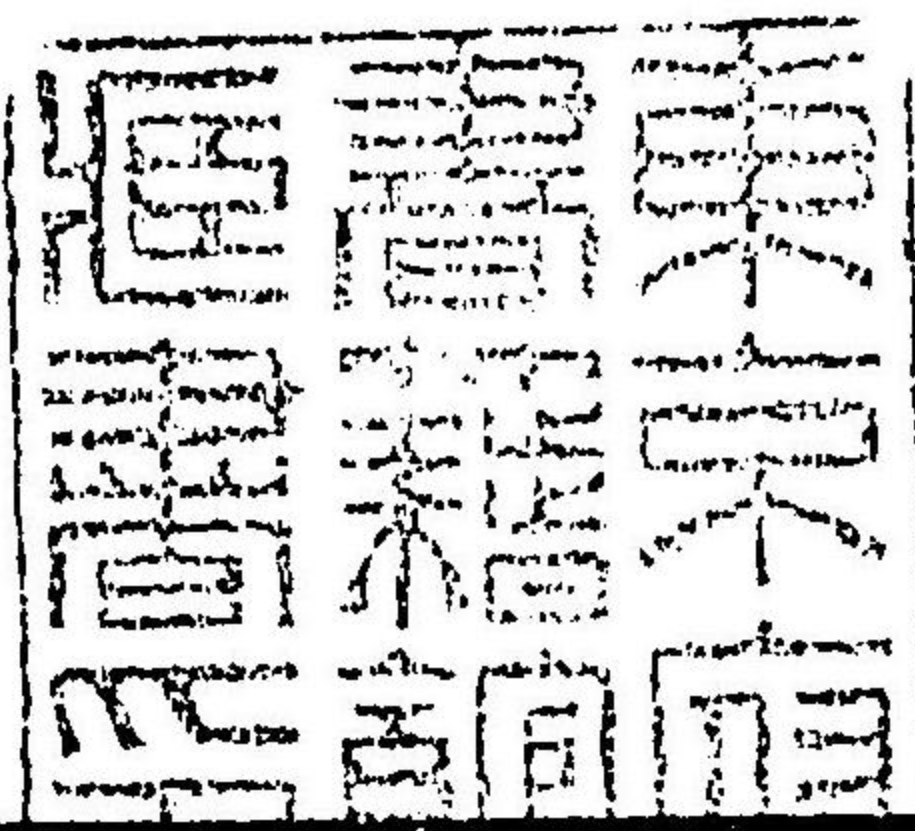
域判然察其學之盛衰理學家後
 盛而未出數百年能統括諸學矣故
 雖政教之學率實理則不得成其用
 余嘗曰教真善於佛教學真良於理
 學如多馬彼因氏者蓋理學之精者
 也歟其致耶教亦精且確者也耶教之徒
 狡獪詭智恐不能接鋒余嘗有讀天
 主教書時曰錯去錯來惟釋真點兒

巧飾滋瘴民嗚呼天主知吾吾多是
 先天不滅人亦當時不能釋者此書件
 件百證鑿之穿窬謂之照魔之靈鏡非
 過後也如多馬氏實先得我心者而余之友
 見之亦豈不釋然哉由此熿之余之所信
 教真善於佛教科亦安知不有至後世
 如多馬氏者出而淘之法之殆無可遁也哉
 余閱佛書以謂猶如萬斛沙中擇數

顯真金但取其真金而置其砂礫而可也
然而非如彼耶教鑿冠石以金銀故曰教莫
善於佛教抑濁之徒之亦必依實理所
以理廣大無外者實理也噫今之至於
教壇者烏得不取彼實理之桑土而綢繆
教彌法戶也哉雖然余於多馬氏未能
無憾然多馬氏以為天地造化之主理
之真神如人心亦神之之所授與此未識人

心之實體蓋心也者亘乎萬世而不滅周乎
萬物而非有故其顯也如有而其實則生
其隱也如無而其真非滅辟如水火之有
生滅而未嘗生滅其原質也况有授受與
奪者哉此理之至妙非拘泥於聞見理學
者流之所能知也嗚呼多馬氏逝矣余憾
不能語斯人以此理使斯人屈死於造物
主之藩籬可惜也哉余友平河岸氏幹

7-35



道理之世
卷一
明治十年圖書局發行

此書之釋事而後多序乃忻然書之
日本紀元二千五百三十六年三月

鶴象逸民坦山撰



道理之世發凡

明治十年圖書局發行

此書原本ハ一千七百八十年亞米利加合衆國出版
英人^{トマス・ペイン}多馬彼因氏ノ著ニシテ原名ヲ「イジ、オ
ブ、リ、ゾ、ン」ト云フ編内ノ所論專ラ理學ニ振
シテ宗教ヲ愚信スルノ弊害ハ人智ノ開閉ニ關
スル者ナレバ應サ實理ノ光線ヲ放テ世ノ昏蒙
ヲ照破スベキ所以ヲ説明セリ其言確ニシテ刻
ナラズ其論密ニシテ煩ナラズ大ヒニ開化ヲ裨
補スル所アルヲ以テ友人深間内氏之ヲ譯シ余

道理之世
卷一
發凡一
雜書集

之ヲ校シ而シテ印刷式ニ授クテ世ニ公ケニス
ル者ナリ

本書原ト初中後三篇トス今之ヲ全部八冊トセ
リ即チ初篇ヲ第一第二トシ第三ヨリ第六ニ至
ルマデハ中篇ニ屬シ後篇ヲ七八兩卷トス其初
篇ハ著述者獄中ニ在テ草ヲ起シタル者ナレハ
論只大趣意ニ止マル中篇以下兩約全書ハ後人
ノ偽作ナルヲ證スルニ兩約書中ノ文ヲ以テス
其耶教ヲ破スル未ク曾テ此書ノ堅確ナル如キ
者ヲ見ズ省官就テ閱セヨ
校者識

多馬彼因氏小傳

多馬彼因ハ英國ノ人ナリ父ハ「カツケル」宗ノ人
幼年ノ時帆ヲ織リ網ヲ結ブヲ業トス倫敦ニ在
テ暫ク其業ヲ營ミ後チキント川ノサンドウエ
ツチニ至ル千七百六十一年ニ及テ倫敦府外ノ
學校ニ在リ頗ル文學ニ長ジテ教官ニ擢デラル
然ルニ幾クモナク其職ヲ辭シテ再ビ故トノ業
ニ從事ス當時同業ノ者ノ苦情ヲ寫シセク官ニ
上言ス官吏之ヲ讀ミ其文ノ巧妙ナルニ感ジ書
ヲ添テピンヤミン、フランキリンニ贈ル竟ニ同

氏ハ彼因ニ勸ムルニ米國ニ來ランコトヲ以テ
 ス故ニ米國ニ趣キ數日ナラズレテ「ヒラデルヒ
 ヤ、マガジイン」ト稱スル書ヲ著ハレテ刊布セリ
 即チ一千七百七十五年ナリ翌年ニ至テ「コンモ
 ンセン」ト題スル書ヲ著セリ其書ハ即チ各人
 各自獨立ノ精神ヲ鼓舞スル所ノ世間ニ於テ最
 モ緊要ノ書ナリ彼因ハ此書ヲ著ハシタルニ因
 テ「ペンシール」ハニヤノ衙門ヨリ五百弗ノ賞典ヲ
 受ケタリ再後亞米理加ニ兵亂ノ起ルニ及ビ屢
 人民獨立ノ氣象ヲ激勵ス千七百八十五年コソ

レンスニ從テ佛蘭西ニ至リ大ニ功勳ヲ奏セリ
 千七百八十五年米國ニ歸リ「ヒラデルヒヤ州會
 議」ノ書記官ニ任ゼラレ俸金三千弗及ビ新「ロチ
 ル」レノ邊リニ一小地ヲ與ヘラル争亂ノ終ル後
 チ器械學ヲ講習シ其學ヲ追究レ佛ヨリ英ニ遊
 ベリ而シテ英國ニ在ルコト數年ニシテ千七百
 九十一年二月父ノ權ト題スル書ヲ著ハセリ之
 ガ為メニ坐ニセラレ遂ニ刑ニ處セラレントス
 ルニ及ビ道レテ佛國ニ入り國民會議ニ列ナル
 然ルニ「路易十六世」ノ生命ヲ保存スベキ理ヲ論

ゼレ書ヲ著レ又之ガ為メニ罪ヲ獲テ獄ニ下サ
 ル路易歿シテ後テ獄ヲ出ヅ再後千八百零二年
 ニ至ルマデ佛國ニ在テ常ニ政體學交際學宗教
 學ノ諸學科ニ從事シテ數卷ノ書ヲ著セリ千八
 百二年ニ至リ合衆國ノ大統領ジヨペルソンニ
 聘セラレテ米國ニ趣ムク晩年ニ及テ軍艦及ビ
 鐵橋ヲ造クル書ヲ著シタリ其著スル所ノ書中
 政體ノ論說ハ條理頗ル明晰ニシテ抜クベカラ
 ガルノ格言ナリ其宗教ニ關スル論ハ稍俚言ヲ
 用ヒ學力薄キ人ノ記セシ者ノ如シ

彼因ハ千七百三十七年英國ノルボルク州セツ
 トホルトニ生レテ千八百零九年米國ニ在テ歿
 ス
 歿後數年ヲ經テコツペツト、カペイント云フ者
 其屍ヲ英國ニ送り大ニ英政府ニ賞セラレンコ
 トヲ冀望セシガ反テ恥ヲ招ギタリ

其屍ヲ英國ニ送り大ニ英政府ニ賞セラレンコ
 トヲ冀望セシガ反テ恥ヲ招ギタリ

多田氏傳

卷三

中篇

- 自序
- 總評論經典
- 舊約全書前五卷之論
 - 創世記
 - 出埃及記
 - 利未記
 - 申命記
 - 民數記
- 約書亞記之論
- 士師記之論
- 路得記之論
- 撒母耳紀之論

卷四

- 列王紀及歷代志略之論

- 以士喇尼希米二紀之論
- 以士帖紀之論
- 約百紀之論
- 詩篇之論
- 傳道及雅歌之論
- 以賽亞書之論
- 耶利米書之論

○諸先知書之論

卷五

○新約全書之總論

卷六

○兩約全書之判決

○夢之論

卷七

後篇

○自序

○序論

○馬太傳之論

卷八

○馬可傳之論

○路可傳之論

○約翰傳之論

○結論

○馬太馬河二傳之餘論

○想像未來論

目次終

道理之世卷一

初篇

○總論

深間内 基 譯述

干河岸 貫一 校正

余曾テ教門ノ事ヲ論辯シタル書ヲ撰述シテ世ニ公ケニセントスル歳アリ然レドモ宗教ノ秘奥ヲ酌量スルトキハ議論稍高尚ニ涉リ理義錯綜スベキヲ前知スルガ故ニ少壯未熟ノ日ニ於テ為スベキニアラズ老成ヲ待テ之ヲ著ハサシ

評者有自ら以
て確論ハ其
迷ハレテ
ス

トスルヤ遷延今ニ至ル且ツ此書論辯スル所ノ
歸首ニ至テハ賢愚トナク一般ニ肯許スベキ公
正確實ナルヲ要ス者者篇末ニ至ラハ果シテ其
然ルヲ領知セシ故ニ其言ヲ立ル純然タル確論
ナレバ敢テ人ノ疑難ヲ受ケズ縱使此書ヲ讎視
スル人ト雖ドモ猶ホ且ツ喙ヲ容ル、所ナカラ
シ○佛蘭西ニ於テ盡ク僧尼ヲ廢シ後人偽造ノ
教旨ト宗規ヲ革除スベキノ論起リシハ余ガ此
書ヲ刊行スル志ヲ促ガセシノミナラズ渾テ此
ニ類似スル著述ハ貴重セラル、ニ至レリ是他

近世の世
卷一
神學の辯

ナレ世人妄リニ宗教ニ昏眊スルヲ警覺シ神學
ノ謬錯セルヲ矯正シ以テ神學ノ真面目ヲ發揮
シ人々ヲシテ各倫理ヲ保存セシメシコトヲ希
望スルニ在ルノミ○余ガ五三ノ同志及ビ佛國
ノ知友ハ自身ノ意見ヲ以テ真理ヲ崇信シ徒ニ
世人ニ雷同スベカラザルコトヲ論ゼリ余亦然
リ且ツ余以為ク信ナル者ハ決シテ明々タル真
理上ニアラザレバ立ツベカラザル者ナリト○
余各人全等ノ權アルヲ信ジ而シテ立教ノ基本
ハ公正ヲ先キトシ慈愛ヲ主トシテ人類ノ幸福

神學の辯
卷一
二
神學の辯

卓是語識

ヲ保全スルニ在ルヲ信ズ然ルニ世人自ラ後人
 偽造ノ宗教ニ惑フコトヲ曉トラズ却テ余ヲ以
 テ他教ニ左祖スル者トセン今其疑ヒヲ解カン
 為メニ此書ニ於テ其余ガ信ゼザル所以ノ者ヲ
 歴掲シ且ツ其信ジ難キ所以ノ理ヲ辯明セン○
 猶太^{ユダヤ}羅馬^{ローマ}希臘^{ギリヤ}土耳其^{トルコ}等ノ諸教及ヒ新教其他數
 多ノ宗派アリト雖ドモ余其徒各信重スル所ニ
 於テ一切ニ之ヲ信ゼズ余特ニ我が一心ヲ以テ
 我が信ズル所ノ宗教トス○猶太耶穌等ノ諸教
 ハ渾テ人爲ノ外ニ出デズ其之ヲ造設セシ所以

ハ只愚民ヲ哄騙シテ奴隸タラシメ已レガ威權
 ヲ專擅シ利益ヲ壟斷スル為メニセシ者ノ如シ
 ○余此ノ如キノ言ヲナスモ敢テ宗教ヲ信奉ス
 ル人ヲ尤ムルニアラズ何トナレバ彼輩亦余ガ
 自ラ信ズル所ヲ信ズルト同等ノ權利ヲ有スレ
 バナリ然リト雖ドモ人タル者自己ノ一心ヲ信
 ズルハ最モ貴重スベキコトニシテ且ツ其身ニ
 幸福ヲ享クル者ナリ世ノ教法家ト稱スル輩ノ
 信ハ自ラ信ゼザルヲモ我ハ深ク之ヲ信ズト宜
 言誇稱スルニ過ギズ○若シ自ラ信ゼザレドモ

只世間ニ對シテ一般ノ風俗ニ悖ルヲ懼レ表面
ヲ塗飾シ信教者タルが如クスルトキハ是其心
ノ歸著ハ交際上ニ從テ定ムル者トスルカ若シ
然ラバ德義ヲ誤認スル甚シキ者ト謂フベク志
操ヲ腐蝕褻瀆スル亦甚シト謂フベレ是好ムデ
罪愆ヲ干犯スル人ナリ而シテ其業ヲ昌ニシ其
身ヲ尊バレシコトヲ欲シ自ラ信ゼザルヲモ伴
リテ信ズル態ヲ為ス余其廉恥ヲ破ル焉ヨリ甚
キ者アルヲ知ラズ○余が米國ニ在テ一篇ノ鄙
著「コンモンセンス」普通ノ感ト題セル者ヲ刊行

セシ歳ニ當リ獨立ヲ聯邦ニ布告シタル大變革
アリ之ニ由テ國ノ政制變革スレバ教規亦隨テ
改易アル實況ヲ目撃セリ凡ソ猶太土耳其ヲ問
ハズ政教混合ノ時代ニ於テハ國教或ハ宗旨ノ
大綱ニ就テ爭論スルヲ嚴禁シ之ヲ犯ス者ハ敢
テ假サズ待ツニ贖ト刑トヲ以テス吁此ノ如キ
ハ固ヨリ永世ノ憲法トスルニ足ラズ果シテ政
教漸ニ兩途ニ分カルハニ到レリ尚ホ政制漸ニ
變更スレバ宗規モ隨テ改革シ遂ニ僧侶ノ詐偽
ヲ洞見シ世ヲ擧ゲテ純粹ニシテ汗瀆セザル真

理ヲ信ズルニ至ルノ日アルベシ○夫各教ノ基
礎ハ或ル一個ノ人アリ神又ハ神使ヨリ某々ノ
事ヲ傳示セラレシト云フヲ口實トシテ立シ者
ナリ摩西ノ猶太教ニ於ケル基督ノ耶穌教ニ於
ケル馬哈默マハモノ土耳其教ニ於ケル皆然リ而シテ
其情狀ヲ思察スルニ神ノ道ハ秘密ニシテ現存
ノ衆人ニハ開顯スベカラザル者トスルガ如シ
各教皆經典アリ之ヲ神ノ嚙示ト名ク猶太宗ニ
テハ摩西ガ神ヨリ面授セシトイヒ土耳其教ニ
テハ天使ヨリ傳ヘシトイフ而シテ各互ヒニ相

非斥シテ妄説トス余ハ渾テ此各種ノ教ヲ信ゼ
ズ其信ゼザル所以ヲ今聊カ左ニ陳述シテ嚙示
ノ偽造ナルコトヲ辯ゼン(此嚙示ヲ宗教ト者做
ストキハ神人授受ノ義ヲ有ス)○何人ヲ問ハズ
自ラ嚙示ヲ得ントスル忽チ神人相通ズルヲ得
ハ必ズ神ノ材能ヲ無ニスルコトナク他ノ人モ
亦疑恠スベカラズト雖ドモ唯或ル一介ノ人ノ
ミ嚙示セラレシト云フトキハ是只其人ノミニ
示サレシ者ナリ其人若シ第二ノ人ニ此事ヲ告
ガ第二ノ人ハ第三ノ人ニ傳ヘ漸次ニ傳播スル

ニ至テハ早ク已ニ嘿示ノ嘿示タル本色ヲハ失
ヘリ只第一ノ人ノミ嘿示ト云フベク自餘ノ人
ニ於テハ只傳説タルニ過ギズ故ニ億兆ノ人ヲ
約束シテ神ノ嘿示ナルが故ニ爾ヲ必ズ信順セ
ヨト云フベキ理アルコトナシ○已ニ人ノ手ヲ
經テ書ニ筆シ或ハ口碑ニ傳フル如キ者ヲ嘿示
ト稱スルハ謬リノ甚シキ者ニシテ且ツ其稱呼
モ亦妥當ナラザルヲ覺フ苟クモ嘿示ト稱スル
ハ初メ神ヨリ傳ヘシ人ニ局ル其他ハ傳聞セシ
話頭ナレバ其神ヨリ直チニ傳ヘラレシ人ハ深

ク仰信ノ思ヲ為スベシト雖ドモ豈ニ他ノ人ヲ
シテ已レが仰信スル如クナラシメントスル理
アラシヤ何トナレバ他ノ世人ハ神ヨリ傳ヘラ
レズ只其傳ヘラレシ人ノ談話ヲ聞レノミナレ
バナリ○摩西が似以色列族ニ對シテ説示シ曰ク
神我レニ手ツカラニ碑ニ記セシ誠律書ヲ授ケ
タリト此時其民族ニ於テ必ズ其誠法ヲ遵守ス
ベキノ約束ヲ受クベキ條理ナレ何トナレバ其
民族ハ摩西ノ語ヲ信ズルノ外更ニ確證ナキヲ
以テナリ況ヤ我輩ニ至テハ史傳ニ於テ知ルノ

外更ニ確證ノ信ズベキナレ且ツ夫誠法ノ如キ
 ハ神教中ノ理ヲ説キシ者ニアラズ只哲人ノ法
 律ヲ議定スルヲ煩サズシテ各人其獨リヲ戒慎
 スベキ所ノ善良ナル徳行ノ模範ナルノミ○余
 聞ク可蘭^{コラン}ハ天ニ於テ記録セシ書ニテ神使降テ
 馬哈默ニ授ケシト其説タル亦風説ト類ヲ同フ
 ス余其天使ヲ見ザル故ニ何ゾ之ヲ信ズベキ義
 務アラシヤ○童女馬利亞ハ未ダ嘗テ男子ト室
 ヲ共ニセズシテ子ヲ産ミタリ神使其婚ヲ約セ
 シ夫^{シヨセフ}約瑟ニ告ルニ此事ヲ以テセリト云フ余又

之ヲ信ズベキ義務ナレ何トナレバ總テ此ノ如
 キ奇異ナル事實ニ頼テ人ノ信ヲ取ルヲ要セバ
 必ズ尋常ノ事ニ比スレバ一層著明ナル證左ナ
 カルベカラス然ルニ今之ヲ闕ク况ヤ約瑟モ馬
 利亞モ自ラ此事ヲ記セシコトスラナキオヤ唯
 他ノ人ノ風説セシ者ノミ余此ノ如キ風説ヲ憑
 據トシテ信重スルヲ欲セズ○然リト雖ドモ當
 時ノ人ノ基督ハ神子ナリト信ゼシハ其理ナキ
 ニ非ズ基督ノ時ニ方ツテヘーデン宗ノ神學盛
 リニ世ニ行ハレタリ其神學ハ此ノ如キ恠説ヲ

造リテ人ノ信ヲ取ルヲ常トス故ニ此神學ノ旺
盛ナル時ニ生レシ英儁ハ渾テ某ハ某神ノ子ナ
リト稱セラレ、者常例ナリ人亦之ヲ愚信シ敢
テ理ニ契フト否トヲ問ハズ神ト交會シテ孕ミ
シ婦女アリト云フモ敢テ之ヲ疑恠スル者ナシ
此ヘーデン宗ノ説ニ「シヤピトル」神ノハ數百ノ
神ト同居スト云フ然レバ則チ耶穌降生ノ説ノ
如キハ新奇ニモ非ス疑恠スベキニモ非ズ是當
時信神者ト稱スル人民中一般流行セシ説ト殊
異ナラザル者ナレバナリ然レドモ特リ猶太ノ

ミ此ノ如キ説ヲ信ゼズ「ヘーデン宗」ヲ非斥シ神
ハ一ニ局ル者ナル理ヲ信ゼリ○耶穌宗ノ説ハ
「ヘーデン」宗ノ神學ノ末ヨリ生ゼシ者ナリ先ツ
耶穌ハ昇天セリト説テ其名譽ヲ成ス是彼宗ニ
符合スルノ第一トス其後繼テ起リシ三位ノ神
アルノ説ハ前ニ二萬三萬ノ神アリト云ヘル數
ノ減セシ者ナリ又馬利亞ノ肖像ハ「イピシ」ハノ
「ダイナ」ノ肖像ニ模シ英雄ヲ祀テ神トスルヲ轉
ジテ「セイ」ト者トスルニ至レリ「ヘーデン」宗ノ
神學ヲ信ズル人ハ物皆神アリトシ耶穌宗ハ各

成聖スルトス故ニ耶穌宗ノ寺院ハ「バセラ」（馬ノスーデン宗ノ寺ニテ衆神ヲ合祀スル所ノ如ク一寺ニ數多ノ「セイ」ントラ合祀ス羅馬ハ此兩教並べ行ハレシ地ナリ耶穌宗徒ノ説ハ古代ノ偶像ヲ崇信スル神學家ノ説ト殆ド相似タリ然ル所以ハ原ト權威ヲ掌握シ利益ヲ貪求スル為メニ造リシ者ナレハナリ而シテ此恠妄不良ノ説ヲ摧碎スルニハ真理ト理學ノ利刃銳鋒ニ如ク者ナシ○耶穌降生ノ奇瑞及ビ族譜等スベテ耶穌ノ自ラ記セシ書ナシ新約全書ハ固ヨリ耶穌ノ撰ニアラズ且ツ

其紀傳ノ如キ全ク他人ノ手ニ成ル者ナリ而シテ耶穌復生シテ升天スト云フ者ハ前ノ降生ノ説ト照應セシムル緊要ノ談トス何トナレハ紀傳ノ作者耶穌ノ非厄ナルコトヲ示サントシテ殊ニ神奇ノ事ヲ以テ出誕ノ初メニ置ケリシ故ニ再ビ同手段ヲ以テ耶穌ノ名譽ヲ結ビ以テ首尾相應セシム若シ然ラザレハ前ノ降生ノ説地ニ墜チザルヲ得ズ○此復活升天ノ恠説ハ其功夙カニ耶穌が畢生ノ事業ニ卓越ス其降生ノ説ハ太ク恠奇ナレハ世ノ公理ニ於テ許サハル所

ナルニ此升天ノ事ヲ記シタル人ハ假令自ラ信
ゼシニ非ルモ人亦深ク之ヲ論駁セザリシニ由
テ終ニ後世此教ノ滋蔓スル大基礎ヲ立タリ想
フニ此事ヲ記セシ者自ラ信ジテ之ヲ記スルモ
此事ヲ證スルコトハ固ヨリ企望スヘカテズ何
トナレハ確然憑據スベキ者無キヲ以テナリ○
然リト雖ドモ今若シ此事ハ實録ナリト假定シ
テ論ズルトキハ後生升天共ニ甚カ理ニ乖キタ
ル者ナレバ苟モ此事ヲ以テ人ノ信ヲ得ント欲
セハ晨曦ノ東山ニ升リ風船ノ雲霄ニ冲ルガ如

ク少キモ 耶路撒冷 全都ニハ昭乎タル證迹ヲ顯
スベキコトナラズヤ夫各人一般ノ信ヲ取ルヲ
要セバ有形無形ノ二證中其一ハ必ズナカルベ
カラザルハ天下ノ通理ナリ此升天ヲ遍ネク衆
人ニ目撃セシムルコトハ前ノ降生ノ説ノ真偽
ヲモ決スベキ證ヲ立ル機會ナリシニ曾テ此事
ナケレハ其前後升降ノ説共ニ地ニ墜ツベシ然
ルニ此衆多ニ示ス證ニ代ルニ僅カ八人或ハ九
人ヲ出デザル門徒等ガ全地球上人民ノ代人ニ
立チ八九人ノ説ヲ以テ億兆ニ信セシメントス

ル亦太ク泰ナラズヤ故ニ多瑪ハ耶穌ノ門徒ナ
レドモ其師ノ復生ヲ信セズ他ノ門徒輩相語り
テ渠儂ハ明證ナキヲ以テ信セザルナリト云ヘ
リ余モ亦然リ理ハ一ノミ多馬ニ於ケルモ余ニ
於ケルモ世上一般ノ人ニ於ケルモ其理豈異ナ
ルアラムヤ○事實ヲ秘シ或ハ偽作スルヲ謀ル
ハ尤モ惡ムベキコトナリ渾テ其説ノ常理ニ乖
戾スル者ハ欺詐ノ確徴ナリ恰カモ其額上ニ欺
字ヲ印セシが如シ夫世ニ行ハル、書籍ハ即チ
何人ノ作ナルヲ知ラシムル為メニ撰者ノ名ヲ

掲ケルヲ例トス然ルニ新舊兩約書ノ如キハ撰
者ノ名ナケレバ其何人ノ著述ナルヲ知ラズ又
耶穌ノ復生升天セシコトノ真偽ヲ證スルニハ
猶太人ヲ以テ最モ好キ證人トス何トナレハ猶
太人ハ恰モ此復生升天ノ事アリシ時ニ生存セ
ル人民ヨリ連綿系續スル者ナレバナリ然ルニ
猶太人ハ此説ヲ以テ虚誕ナリト云フ予因テ思
フニ此異蹟アリシ證人ニ猶太人ヲ立ルコトハ
成シ難シ例ヘバ爾ガ言ハ皆妄誕ナリト云フ
人ヲ借ヒ爾ガ我が言ノ眞實ナルヲ證セヨト云

フが如クナル故ニ○紀傳中ニ於テ信スヘキ部
分ハ只耶穌ト名クル人ノ世ニ出デ而シテ刑ニ
罹リテ死セシト云フコトノミ蓋シ耶穌ハ優ナ
ル道德ヲ行ヒ人権ノ同等ナルヲ説テ人ヲ教誨
セシノミナラズ猶太ノ僧侶ノ營私貪汙ナルヲ
惡シ其弊ヲ矯正セント欲シ常ニ此徒ニ抵抗シ
テ門徒及ビ衆ヲ諭セリ是乃チ猶太國中ノ僧徒
ノ憤怨ヲ其身ニ擔フ所以ナリ故ニ耶穌ヲ罪ニ
陷ラシメン為メニ此貪汙ナル僧徒等カ當時猶
太ヲ管セシ羅馬政府ニ謀反セントスル黨與ノ

魁首ハ耶穌ナリト聲言セリ最モ耶穌ノ猶太人
民ヲシテ羅馬ノ羈絆ヲ脱セシメントスル志ヲ
抱キシハ疑ヒナシ又羅馬政府ニテハ猶太ノ僧
侶及ビ其教ハ幾クカ用ヲ為スト思ヒシナルベ
シ此ニ於テ耶穌ハ其慈愛ノ熱腸ヨリシテ身命
ヲ亡ボスヲモ顧ミザリシ者カ○神學者自ラ耶
穌宗ト稱シ種々ノ小説ヲ捏造ス余ガ次下ニ記
スル所ハ他ノ事跡ト照シテ此ヲ論駁スベシ且
ツ其造ル所ノ小説ハ乖謬ニシテ頗ル荒唐不經
ナルハ上古ノ神學ノ基礎トセシ者ニ減セガ○

古代ノ神學者曰ク「ギインツ」ヤピトルト「ギインツ」長軀大
ナルト鬪ヒシコトアリ其鬪争スルニ當テ一ノ
ギインツアリ「ジャピトル」ニ向テ物ヲ擲ツニ能
 ク百ノ巖石ヲ一擲ス然ルニ「ジャピトル」ハ雷ヲ
 使役シテ其軍ヲ破リ之ヲイトナ山ノ下ニ封閉
 セリ爾後彼レが身ヲ動カス毎ニ山上ヨリ燄ホ
 ヲ噓スト夫此山ハ原ト噴火山ナルヲ以テ此ノ
 如キ考案ヲ起シ小説ノ種因トセシ者ナルコト
 ハ誰人ニテモ容易ク知ルヲ得バシ○耶穌宗ノ
 神學者モ亦云フ神撒但魔鬼ト戰ヒ之ヲ捕縛シ

テ深淵ニ投シ管鑰ヲ以テ封閉セリト是ニ繇テ
前ノ小説ハ後チノ小説ヲ構造スル材料トナリ
シヲ省ルハ亦最モ容易ナリ何トナレバ「ゴジヤビ
ト」ト「ギインツ」ノ事ハ此神ガ撒但ト戰ヒシ説
アル數百年前ノ神學者流ノ常談ナレバナリ○
古代ノ神學ト耶穌宗ノ神學ハ大同小異ナレド
モ耶穌宗ノ神學ハ主トシテ後世ニ傳播スルヲ
計リ且ツ其説ノ稗史ニ類セル者ヲ古代ノ神學
ニ取り間、復猶太ノ傳説ヲ資用ス然レバ耶穌宗
ノ神學ハ半ハ古代ノ神學ニ出デ半ハ猶太ノ傳

説ニ源ス而シテ作者一タビ撒但ヲ淵ニ封閉シ
テ後チ止ムヲ得ズシテ再ビ之ヲ淵ヨリ出セリ
是其説ノ結局ヲ取ル為メニ必須ナルヲ以テナ
リ何ヲ以テ爾カ云フトナラバ撒但ハ蛇ノ形チ
ヲ現シ埃田ノ園圃ニ於テ夏娃ヲ勸誘シ禁菓ヲ
啖ハシメ而シテ其婦ノ菓ヲ啖ヒシヲ以テ後世
萬人ノ原罪トナリシト云フ○撒但ニ與フルニ
全能主ノ材力ニ超越スルノ大勝利ヲ以テセシ
後チ神學者ハ何ゾ再ビ彼レヲ深淵ニ封閉セザ
リシヤ然ラザレバ山ヲ掘リ來テ彼レガ上ニ置

クベレ(何トナレバ神ヲ崇信スル者ハ山岳ヲモ
拔除シ得ベシト云フ故ニ)又然ラザレバ古代ノ
神學家ノ如ク彼レヲ山下ニ封閉シ其再ビ世ニ
出デ、婦女ヲ誑誘スル等ノ害ヲ為スヲ禦グベ
シ然ルニ翻テ撒但ヲシテ其罪ヲモ謝セシメズ
シテ之ヲ放免スル者ハ果シテ何ノ為ゾヤ是其
實撒但ヲ假ラザレバ為ス能ハザルコトアレバ
ナリ故ニ神學者ハ撒但ヲ世ニ停留シ之ヲ猶太
土耳其等ノ宗徒ニ送致セシ者トシ爾後此ヲ以
テ耶穌宗徒ニ幸福アルコト疑フベカラズト誇

稱ス○前ニ云フ如ク神撒但ト天ニ於テ戦ヒレ
 時兩軍中一人モ殺傷セラレズ遂ニ能ク深淵ニ
 幽閉スルノ偉功ヲ成シ再ビ放免シテ世界ニ横
 行セシメ之ニ與フルニ全能主創造ノ功ヲ奪フ
 ホドナル勝利ヲ與ヘ禁菓ヲ啖ヒシヲ以テ善良
 ナル人類ヲ罪スト此ノ如キ小説ヲ造リタル神
 學家ハ結局ヲ一時ニ取ル為メニ神有徳温良ノ
 基督ヲ以テ人間ニ降シ夏娃啖菓已來ノ世人ノ
 罪惡ヲ贖フ為メニ刑架ニ死シ而シテ復タ蘇生
 シテ白日ニ升天セシ神子ナリト宣揚セリ○事

實ノ錯謬シテ嘲笑シ汗瀆シテ棄厭スベキ者ハ
 暫ク措テ問ハザルモ閉目熟思シテ此説話ヲ究
 明シ反覆考量シ來レハ愈々全能主ノ威力ヲ損減
 スルノ甚レキヲ覺ルナラン何トナレバ神ハ大
 能巨力アリト云フニ反對スルコト尤モ甚レケ
 レバナリ○作者宗門ノ基礎タル一説ヲ搆ヘテ
 全能主ニ勝ル(或ハ均等ナル)作用ヲ撒但ニ有セ
 シメ撒但ニ深淵ヨリ身ヲ脱スル力ヲ與ヘシノ
 ミナラズ遂ニ際涯ナキ地位ニ進マシメタリ且
 ツ其淵ニ閉チラル、前ハ限リアル力ヲ有セシ

者トセリ(他ノ神使等ト同ク)其淵ヲ出シ後ハ大
自在力アル者ト為リ而シテ撒但ノ身ハ各所同
時ニ出現シ普ネク全世界ヲ占ムルニ至ル○作
者撒但ヲ神トスルモ未ダ意ニ滿タズ更ニ一攷
案ヲ設ケ蛇ノ形ヲ現シ神ノ全材全能ヲ破リ
シ者ナリト揚言セシノミナラズ猶ホ全世界ヲ
賞罰スルノ大權ヲモ撒但ニ持セシメ神ハ僅カ
ニ自ラ地上ニ降生シ人ノ形ヲ示シ十字架上
ニ釘セラレ血ヲ濺キテ以テ贖罪ヲ為スト云フ
ニ至ル○作者若シ此説ニ反セル考案ヲ起シテ

撒但ノ罪ヲ正シ彼レハ蛇ノ形ヲ以テ刑架ニ
懸リタリトセバ其説稍齟齬少ナキニ庶幾カラ
ン然ルニ作者却テ此ニ代フルニ罪ヲ犯セシ者
ニ勝チヲ與ヘ罪ナキ全能主ニ敗ヲ取ラシメタ
リ○淳良少智ノ人ニシテ此ノ如クナル稗史ニ
等キ説ヲ信ズル者頗ル夥多ナリ是深ク疑恠ス
ルニ足ラズ是等ノ人ハ皆ナ幼ヨリ之ヲ信ズベ
キ方規ヲ以テ教育セラレ且ツ慣習俗ヲ為セバ
ナリ若シ初メ神學者ノ之ヲ造ル時今日現存ノ
説ト全ク反對ナル事ヲ以テシ而シテ同レ方法

ヲ以テ傳フレバ則チ此ヲ信ズル必ズ今ノ耶穌
宗ノ説ヲ信ズルガ如クナルヲシ又人々神ハ自
ラ身ヲ降シテ刑架ニ投戮セラレシ者ナレバ其
人ヲ愛矜スル際涯ナキ者ト思ヒ之ヲ信ズルノ
牢固ナル其説ノ舛錯汗穢ナルヲ攷覈討論スル
事ハ痛ク之ヲ禁遏スルニ至レリ吁天理ニ反ス
ル愈甚シキ者ハ愈人心ヲ感動スルニ適ナフ者
邪○然レドモ作者我人ヲシテ深ク神恩ヲ感荷
セシメント欲セバ何ゾ恆ニ人ノ五官ニ觸ル、
事ヲ以テセザル夫我人ノ住スル地球ハ人ノ財

カラ費サスレテ我が用ニ供シ太陽ヲ耀カシ雨
露ヲ降シ萬物ヲ以テ地球ノ表面ニ充備スルハ
皆ナ人ノ創作セル者ニアラズ人ハ動靜起眠ス
ルモ地球ハ旋轉シテ暫クモ休止スルコトナシ
是ヲ神為ト認メシメハ其恩ヲ感謝スルノ心ヲ
生ゼン而シテ今作者ノ示ス所ヲ觀ルニ其言フ
所死後永生ノ幸福ノ如キハ我輩ハ信受シテ歡
抃スル能ハズ○人ヲシテ慘愴タラシムルハ自
ラ身ヲ棄テ、刑ニ罹ルガ如キヨリ甚シキ者ハ
アラズ惟フニ假令當時ノ人民何程驕傲不遜ナ

ルモ其子ヲ降生セシメラ血ヲ流スニ非レバ神
 自ラ慰スルコト能ハザリレホドノ甚レキニハ
 至ラザルベレ○世人或ハ余ガ此論辯ヲ聞キ驚
 キ且ツ怒ルベレト雖ドモ其説ノ真偽ヲ問ハズ
 漫ニ之ヲ信崇スルハ亦輕忽ム人ト謂ハザルヲ
 得ズ余為メニ經典編輯ノ年時及ビ宗教ノ歸旨
 ヲ解明センコトヲ希望ス凡ソ耶穌ノ紀傳ハ小
 説ナリト非作スルハ獨リ我黨ノミナラズ汎ク
 各邦ニ同様ノ疑難ヲ起ス人少ナカラズ今其疑
 トヲ懷ク人ト又其信スベキヲ疑ヒ却テ信スベ

カラザルヲ信ズル等各個ノ人ノ為メニ此宗義
 ノ主トスル所ヲ自在ニ考覈シテ其真妄如何ヲ
 論ゼントスルニ先ツ新舊兩約書ニ就テ推鑿ス
 ルヲ要ス夫此兩約書即チ經典ト稱スル者ハ創
 世記ニ始マリ嘿示録ニ終ル世人普ネク談ズル
 所ニ從ヘハ此嘿示ハ神ノ傳ヘシ者トス故ニ此
 説ノ實否ヲ知ラントセバ宜ク其書ノ體裁ハ何
 人ノ後人ニ遺セシ書ナルヤヲ搜索スベシ然ル
 ニ其書ヲ讀ムニ或人ハ此ノ如ク語り他ノ人ハ
 此ノ如ク談ゼリト云フノミ然ルニ歷史上ニ於

テ其事ヲ推考スレバ即チ次下ニ云フガ如シ○
 耶蘇宗ノ神學家此書ヲ編輯スルニ當テ當時ノ
 アラユル書籍ヲ蒐集シテ之ヲ取捨セシ者ナリ
 故ニ兩約全書中載スル所ノ文ハ其撰者ノ書キ
 レ原文ト同ジキカ或ハ編者ノ意見ニ任セテ之
 ヲ添刪セシカ今ニ於テ知ルヲ得ベカラズ○此
 事ハ暫ク措クサテ編者ハ其集メタル群書中神
 ノ嘿示ナルヤ否ヤヲ決スル為メニ投票ヲ用ヒ
 タリ而シテ其時夥キ書ヲ削除シ「アポクレピヤ」
 事ノ分明トナト稱ス其票數多キ書ヲ採テ神ノ嘿

示ト定ム若レ此時編者反對ノ投票ヲナサバ耶
 蘇宗ノ教義ハ今ト背馳スル者ニシテ宗徒ハ今
 ト及スル教ヲ篤信セシナラン何トナレハ耶蘇
 宗ノ信ハ編者當時ノ投票ニ由テ生ジ來ル者ナ
 ル故ナリ然ルニ此經典ノ編者ハ何人ゾト問フ
 ニ予ハ其誰ナルヲ知ラズ他ナシ經典ニハ正シ
 ク編者ノ名ヲ題セズ一般ニ宗教寺院ノ名ノミ
 ヲ記スルヲ以テ我輩ハ只其教寺ニテ編ミシト
 認ムル而已○然レバ誰人ノ編輯セシヤ之ヲ知
 ルベカラズ又之ヲ證スベキモノナケレハ只其

書ニ記スル所ノ文義ヲ考覈スルノ外ナレ○既
ニ嘿示ヲ略論ス此嘿示ハ果シテ何ノ為メニ須
ユルヤ今其歸旨ヲ論ゼントス夫嘿示ナル者ハ
一個ノ事ヲ以テ未ダ知ルコトヲ得サル所ノ人
ニ通ズル義ナリ若シ目ニ視耳ニ聽ク等渾テ五
官ノ能ノ及ブ者ニハ嘿示ヲ假ラズレテ足ル故
ニ經典中史記ノ部諭示ノ部ハ嘿示ノ内ニアラ
ズ彼ノ參孫カミサガカミサ加薩ノ邑門ヨリ趨リ或ハ太刺拉
ヲ訪ヒ或ハ孤ヲ執ヘ其他種種々ノ事ヲ為スニ如
何ナル嘿示ヲ兼ケシヤ若シ嘿示アラハ自ラ人

ニ告グベシ又史官アリレトキハ此ニ告ゲレナ
ラン假令之ヲ語り之ヲ記シ得タルモ事若シ作
為ニ出ル者ハ嘿示ト稱スルヲ以テ其事ヲ實ニ
スルヲ得ズ而シテ喋々其真妄ヲ論ズル固ヨリ
余ガ屑トスル所ニアラズ願フニ人知ヲ以テ理
解スベカラザル世界(人智銳敏ナリト雖ドモ僅
々千萬分ノ一ヲ知ルノミ)ヲ統宰スル大能ヲ想
像セバ瑣々タル小事ヲ談ゼシ者ヲ神ノ嘿示ト
稱スルハ神ヲ瀆ス者ナリ創世記ノ首章天地始
創ノ説ハ渾テ以色列人未ダ埃及ニ移住セザル

時ヨリ口碑ニ傳ハリシ説ナル語氣ヲ帶ビタリ
 思フニ以色列族埃及ヲ出シ後チ其史ヲ作ル人
 ノ由來スル所ヲ詳カニセズ漫然筆ヲ下シ歷
 史ノ開卷ニ曖昧タル傳聞ヲ記載セルナリ故ニ
 其文體風説ヲ録セシ者ノ如ク脈絡斷切ス且ツ
 何人ノ之ヲ説キ何人ノ之ヲ聞キ又之ヲ誰ノ為
 メニ説キシ等ノ事ナク第一第二ト相傳兼セシ
 ニモアラズ此事ヲ證スベキ者モナシ摩西ハ人
 ヲ喻嚇セシ(神ト晤對セシコト)が如クニ公然ト
 傳説ヲ書ニ筆スルコトヲバ為サバリシナリ○

創世記ヲ摩西ノ記スル所ト云フハ何故ナルヤ
 余之ヲ解セズ想フニ摩西ハ此ノ如キ傳説ニ其
 名ヲ署スベキヤ不ヤヲ考定スル決斷ナキ者ニ
 非ズ彼レハ埃及人ト共ニ教育ヲ受ケシ人ナリ
 埃及人ハ諸科ノ學術ニ通ジ殊ニ星學ハ當時各
 邦ノ人民ト同等ニハ鍊修セリ摩西ハ此傳説ヲ
 信セズ又書ニ筆セザリシハ必ズ深ク注意シテ
 緘嘿セシナルベシ然レドモ此時ニ當テハ世猶
 ホ蒙昧ニ屬シ各國ノ人民皆其始祖ヲ以テ世界
 肇造ノ神トス然レハ則チ以色列人ノ始祖亦他

邦民族ノ肇祖ト均ク世界創造ノ功ヲ以テ稱讚
セラルベキ權利アリ故ニ摩西ハ此傳説ヲ斥シ
テ創世者ハ以色列人ノ祖神ニ非ズト云フヲ欲
セズ又此説ノ風化ニ害アルニモアラズ上古各
國一般ノ風氣トシテ此ノ如キコトヲ傳フルト
キハ經典ニ就テ一々之ヲ駁スルニ足ラザルナ
リ○余經典ヲ取テ其戰鬪殘暴ノ記ヲ讀ム毎ニ
未ダ曾テ卷ヲ措テ戰慄セズンハアラズ其剛愎
悍猛ナル事蹟經典ノ過半ヲ填塞ス我輩ノ見ル
所ニ由レバ之ヲ神ノ嚙示ト稱スルヨリ寧ロ魔

説トセバ所載ノ事實能ク名義ニ適應セン此虐
惡ノ史傳豈ニ經ト稱スルニ足ランヤ是倫理ヲ
覆蔽シ人ノ性ヲシテ獸ノ性ニ同ジカラシムル
者ノ如シ故ニ余此書冊ヲ忌避厭惡スル蟲賊鬼
蜮ト異ナルナシ○余經典中ニ於テ奇怪ニシテ
厭棄スバク誕妄ニシテ賤惡スベキ者ノ外僅々
數句ヲ取ル即チ詩篇ト約百書中トニ在リ殊ニ
約百書ニハ全能主ヲ尊敬シテ高尚ナル想像ヲ
陳ベタル語多シ然レドモ其書ヲ以テ他教ノ人
ノ作リタル説ニ比スレハ優ル所アルヲ見ズ○

所羅門ノ箴言ハ縱使偽作ナルモ實ニ適スルコ
 トヲ編ミタリ(箴言中所羅門ノ時ニ於テ未ダア
 ラザルコトヲ記スレハ其偽作ナルヲ知ル)故ニ
 此中修齊ノ教トナスベキ語多シ而シテ其書タ
 ル西班牙人ノ貽コセル語ノ格言多キニ減セス
 ト雖ドモ米人フランクリンノ語ニ較ブレハ其
 右ニ出ルホドノ者ナシ經典中自餘先知ノ名ヲ
 題セル書ハ猶太ノ詩ニシテ比喻嘿示或ハ誠諭
 ト神ヲ敬愛スベキ事トヲ混和シタル者ニテ各
 地方ヲ遍歴セシ猶太ノ傳教師ノ手ニ成リシ者

ナリ故ニ此先知書ハ翻譯シタル者ナレドモ猶
 ホ詩ノ句調ヲ脱セズ僅ニ字ノ位置ヲ轉換スレ
 バ詩體ニ稱フ者多シ然レドモ直チニ其書中ニ
 於テ詩ト呼ビ詩學ト稱スベキ文句アルニハア
 ラズ次ニモ論ズル如ク後世新ニ一考案ヲ附會
 レテ預言トスル者ハ即チ經典ニ編入セシ詩句
 ナリ預言ハ詩學ヲ為ス術及ビ之ヲ謳ヒ樂ニ調
 和スル事ニ用ユル方ヲ指ス義ヲ含ソリ○今我
 輩が笛喇叭胡弓其他古代ノ樂器ヲ執リ之ヲ吹
 キテ預言スルトトハ其言詮スル所全ク預言ノ

意ヲ失レ唯笑フベク賤シムベキ者トナラン何
 トナレバ預言ノ意味古代ニ所謂預言トハ全ク
 轉ジテ將來ヲ前言スルコト、ナリタレバナリ
 ○掃羅ハ預言者中ニ在テ預言セシ人ナリト云
 フ然レドモ掃羅ノ誰人ニ對シテ如何ナルコト
 ヲ預言セシヤヲ記載セズ思フニ是當時一モ其
 事ヲ傳説セザル故ナリ蓋レ當時ノ預言者ハ樂
 人或ハ詩家ノ流ナリ掃羅ノ預言者ト稱セラレ
 レ所以ハ樂人ノ社ニ入りタル故ナリ○撒母耳
 記ニ云フ掃羅ガ衆預言者ニ逢フ其徒種々ノ樂

器ヲ執テ預言セリ然ルニ掃羅ハ後チニ至リ誤
 テ預言セリ是上帝掃羅ノ惡行ヲ疾ニ惡氣ヲ其
 上ニ降レテ預言セシメタル故ナリト○後世此
 「プロヘレング」預ナル語ノ本來ノ意味ヲ失レ將
 來ヲ前言スルコト、セルノ以テ其今日預言ト
 稱スル意味ヲ以テ先知書ヲ見バ實際ニ須用シ
 準擬スルヲ得バカラズ古代ニテハ渾テ宗教ノ
 意味ニ拘ラズ且自身ノ性質品行ノ正不ニモ關
 カラス詩ヲ賦シ樂ヲ奏スル如ク人ノ好ム所ニ
 任セテ預言者トモ為リシ者ナリ故ニ詩ト樂ヲ

并世用ユル學科ヲ名ケテ「プロヘシク」預ト稱
セシナリ夫詩ヲ賦シ樂ヲ奏スルニ如何ナル意
想ヲ陳ブルモ固ヨリ制限アル者ニテラズ空中
ニ樓閣ヲ幻出スルヲ翻テ奇想巧思トスジボラ
バラクノ預言者ト稱セラレシハ曾テ人ニ指示
セシ事アルニ非ズ只當時ノ詩集ノ有名ナル者
ヲ摘抄シ之ヲ編集シテ名ヲ世ニ知ラレシノミ
ナリ次瀾亦預言者ニ列ス此人樂ヲ善クセリ「樂
ヲ善クセシト云モ恐クハ謬傳ナラン」而シテ詩
篇ノ作者ト思ハル獨リ彼ノ亞伯拉罕以撒約瑟

ハ詩歌舞樂ヲ善クセシコトヲ知レドモ未ダ何
ノ書ニモ預言者ト稱セシヲ見ズ○余大小ノ預
言者ノ神ニ托シテ陳ベレ長短ノ文ヲ見ルニ將
來ヲ預言セシ者トセバ索然無味ノ語ナリ若シ
詩學ノ書ト者做セハ稍其價直アル者トス故ニ
此預言ヲ以テ長短ノ詩トシテ解セバ則チ其詩
ノ思想ト異ナルナキヲ領得スベキ者多ホシ○
然レバ則チ猶ホ先知ノ書ヲ考究シテ歎々スル
ハ全ク徒勞ニ屬ス蓋シ「プロヘシク」預ナル語
ノ本來ノ意味ト是等ノ書ノ體裁ト其注解ハ乖

角轉訛スル故ニ爭論スルニ足ラズ然レバ猶太
 人ノ詩が經典ニ編入セラレ且ツ神ノ嘿示ト名
 ケラレ其言フ所口事實ト反對スルヲ以テ隨所
 瑕疵ヲ生ズル書トナリシハ寃ト謂フベシ余自
 ラ信ズ凡ソ人平心ニシテ思想ヲ不易ノ地ニ起
 ストキハ變更ナキヲ庶幾セン故ニ今余如何ナ
 ル事アルモ如何ナル意アルモ變易スベカラザ
 ル者ヲ以テ神ノ嘿示ナル名ヲ與フベシト定ム
 故ニ嘿示ハ何寺ノ書ニモ〔即チ人ノ語ニテハ〕記
 載シ能ハザル者ナリ○言語文字ハ能ク意味ヲ

寓スル者ナリト雖ドモ隨テ變化スル者ナリ且
 翻譯ヲ要セバ各國渾テ國語ニ缺乏アルヲ免カ
 レズ重譯ヲ經ルトキハ間轉訛ヲ生ズ而シテ之
 ヲ謄寫鏤刻スルヤ亦謬誤ナキ能ハズ夫此ノ如
 ク種々轉訛錯謬ノ生ズル人間ノ言語文字ハ真
 神嘿示ノ語ヲ運載スベキ車乘トナルニ足ラズ
 蓋シ嘿示ノ神語ハ更ニ變換錯謬ナキ者ニ於テ
 成立スル者ナリ○假令經典ト稱スル書ハ其考
 索ト文章ハ現存ノ群籍ニ勝ル、モ決シテ之ヲ
 神語ナリト信重スベキ者ニ非ズ况ヤ其記スル

所理ニ於テ成ルベカラザル者多キニ於テオヤ
今此書ヲ通觀シテ評駁セバ猛惡ナル紀傳ヲ除
ク外厭惡スベキ者ノミニテ取ルベキ者ハ千百
中一二ニ過ギズ此ノ如キ書ニ命ズルニ神ノ嘿
示ヲ以テスルハ神ヲ褻瀆スルト謂フベシ○舊
約書ヲ辨駁スル大略此ノ如シ尚ホ進ムテ新約
書ニ論及セン此書ハ舊約書ニ記スル所ト旨趣
自異ニシテ神意ニ途アルガ如キ新説ナリ○基
督ノ素志新宗ヲ建ルニ在ラズンバ必ズ其生涯
ニ於テ宗教ノ綱領ヲ記述セシナラン乃チ其書

ニ華シテ後世ニ布及スルヲ以テ生涯ノ事業ト
セシナルベシ然ルニ今基督撰述ノ書ナシ新約
書ハ渾テ基督歿後ニ撰ミン書ヲ編輯セシ者ナ
リ彼ノ基督ハ猶太國ニ生レ其國ニ住セリ而シ
テ之ヲ神ノ子ト名譽スレドモ予以為ク彼レハ
他ノ世人ト毫モ異ナルナシ何トナレバ造物主
ハ獨リ基督ノミニアラズ即チ億兆ノ大父ナル
ガ故ヒ○新約書ノ首メヨリ列載スル馬太馬可
路加約翰ノ四傳ハ基督ノ傳紀ナル體ニアラズ
唯其門徒及ビ衆ニ諭示シタル語ヲ記スルノミ

屢斷切シテ脈絡アル文ニ非ズ彼ノ基督が教ヲ
 布キシハ僅カニ十八個月ヲ出デズ前ノ四人ノ
 隨從セシモ其月日間ノニ然ルヲ此徒ハ基督ニ
 從フ十二年猶太教中ニ在テ教義ヲ研究セリト
 云フ是此輩未ダ基督ヲ知ラザル數年前ノ事ナ
 レバ馬太寺ノ四人ハ基督ノ親ヨリ其教義ノ説
 ヲ傳兼セリト云フ説アリコレ稍信ズベキニ庶
 幾シ此時ヨリ凡ソ十六年間基督ノ事ヲ記シタ
 ル書ナシ其際彼レハ何ノ處ニ住シ何ノ業ヲ營
 ミシヤ知ルベカラス或ハ乃父ノ業ヲ學ビテ生

計ヲ成セシ者カ若シ然ラバ彼ガ父ハ木エナリ
 キ何ノ學ヲナス間アラシ且彼レガ學ニ就キ教
 育ヲ受ケシコトヲ見ズ恐クハ彼レ文筆更クシ
 テ書ヲ著述スルヲ得ザリシカ蓋シ其父ハ甚ダ
 貧窶ナリシヲ以テナリ何ヲ以テ然カ云フトナ
 ラバ彼レが生ル、時臥榻スヲ購ヒ得ザリシヲ
 以テモ推知スベシ○汎ク世ニ傳播シ尊崇セラ
 ル、三名ノ人ノ系譜各曖昧ナル稍奇ト謂フベ
 シ摩西ハ棄兒ナリ基督ハ馬槽ニ生レ馬哈默ハ
 駱駝ヲ牧セリ中ニ於テ摩西ト馬哈默ハ各教宗

ヲ立シガ基督ハ新ニ宗教ヲ作クラズシテ人ヲ
シテ倫理ニ順ヒ一神ヲ尊信セシメシ人ニシテ
其稟性ノ大線ハ慈愛ノ深キニ在リ○基督ノ行
事ヲ以テ見ルニ其生存ノ日ハ多ク人ニ識ラレ
ザリシ者ナリ又其門徒等ト為ヒシ教會ハ秘密
ナリシ故ニ動モスレバ之ヲ散シ或ハ公ケニ法
ヲ説クヲ禁ゼシコトアリ猶大ガ基督ヲ賣ルヤ
只逮捕官ニ其師ノ住處ヲ告知セシ外他ノ策謀
アリシニ非ズ而シテ逮捕官ハ基督ノ居所ヲ知
ル為メニ猶大ニ賂遺セリ是余ガ前ニ所謂基督

ノ太ダ世ニ識ラレズシテ隱栖セシ人ナルヲ知
ルベレ○此ニ由テ之ヲ案ズルニ基督ノ人タル
世ノ人ノ之ヲ名譽シテ神トスルトハ太ダ異ナ
ルノミナラズ頗ル卑怯者ニ類ス彼レガ賣ラレ
シ所ニ就テ語ヲ換テ云ヘバ基督ハ其門徒中ノ
一人ガ告知セシヲ以テ其居所ヲ人ニ知ラレタ
ルヨリ推ストキハ彼レガ世ニ知ラル、ヲ欲セ
ザルヲ知ハベシ而ルヲ況ヤ刑架ニ上ホルヲ求
メザルヤ固ヨリ論ヲ竝タズ○耶穌宗ノ神學者
ハ云フ基督ハ世間人民ノ罪ニ代テ死セリ而シ

テ基督ノ天ヨリ降生セシ目的ハ罪ヲ贖フ為メ
 ニ死スルニ在リト果シテ然ラバ彼レ若シ痲瘋
 痘瘡ニテ死シ或ハ老テ死シ其他ノ事故ヲ以テ
 死スルモ妨ゲナカルベシ死ニ至テハ共ニ同一
 ナレバナリ ○亞當カ菓ヲ食セシ時ニ當テ説明
 セシ文ニハ汝デハ死スベシト云フ意ニシテ汝
 ガハ磔セラルベシト云フ意ニハ非ズ此文章上
 ニテハ其罰セララル者特リ死ニ在ル耳死ノ相
 狀如何ヲ云ハズ故ニ刑死或ハ其他種々ノ死ノ
 狀態モ獨リ亞當ノ身上ニ局ル後世衆庶ノ悉ク

死スベシト云フ意ハ一モ之ヲ見ズ之ニ由テ亞
 當ニ代テ基督ノ刑架ニ死セシコトヲ此文章中
 ニ準擬スベキ語句ナシ且ソ同一ノ死ナレバ時
 疾ニテ死スルコトモ人々必ズ無キヲ保シ難ケ
 レバ十字架ニ懸ルヲ要スルニ及バザルベシ ○
 神學者所談ノ亞當ノ事ニ就テ記セシ死ノ原因
 ヲ解明スル文中ニ於テハ宜ク天然ニ死スルノ
 意ヲ含マザルベカラズ然ル所以ハ死ハ即チ生
 ヲ止ムルヲ云フ其死ハ神學士ノ所謂刑罰ノ意
 ヲ有スベシ故ニ耶穌カ死スル作用ハ亞當及ビ

今日ノ人民一般ニ免カレザル所ノ死ヲ防遏スルニ適セズンハアルベカラズ○然ルニ我人ノ現ニ渾テ死ヲ遺カレザルヲ以テ見レバ基督ノ死セシ作用ハ徒爾ニシテ之ヲ防遏スルニ足ラザルヤ昭乎タリ若シ神學士永生ノ説真ナルトキハ耶穌刑死ノ後世人殊ニ速ニ死シ一般ノ人民ノ再ビ死セザル為メノ死即チ刑罰ヲ受クル代リトシテ耶穌カ天然病^老死ナル意ヲ含ム而シテ第一^キノ解明ニ從ハバ基督ノ死ハ神ノ天ヨリ降生セシヲ詮ハスト是即チ死ニ就テ解明セ

シ文ヲ銷スル為メニ戲談諧謔ヲ以テセリ保羅自ラ此戲談ヲ作リシ者ナラバ保羅ハ始祖ニ就テ諛謔ニ諛謔ヲ附加シテ始祖ニ一身アルガ如クセリ曰ク一ハ自ラ罪ヲ犯セシ者ト代人ニ立テ死セシ者ト其一ハ代人ニ罪ヲ犯サシメテ自ラ死スル者トナリ此ノ如ク宗教ハ諛謔ヲ淆雜セル者ナレバ教家ノ業ハ是等ノ事ヲ行フ技術ヲ授受スル者ニ屬シ且ツ源由ヲ知ラズニテ附會牽強ノ説ヲ作ルハ教家一般ノ風習ヲ成スニ至ル思フニ基督ハ其宗徒ノ云フ如ク死スル為

メニ降生セシ人ナルトキハ基督ノ能ク堪忍セ
 シ真ノ艱苦ハ死ニ過グル者ナカラシ然レドモ
 基督實ニ天ヨリ此世ニ降生セシ者ナルトキハ
 恰カモ遷謫セラレシ思ヒナルベシ果シテ然ラ
 バ死ハ翻テ故國ニ還ルベキ原由ニテ喜ブベキ
 事トナレリ吁何ゾ其言ノ實ニ及スル此ノ如キ
 ヤ余經典中乖舛謬錯アル者ヲ討索辯論スルハ
 我論ノ公正純粹ナルヲ欲スルニ必須ナレバ實
 ニ止ムヲ得ザルニ出ヅ○新約書中何等ノ部分
 モ是ハ誰人ノ著作ナリトスル者アリヤ余未ダ

之ヲ知ラズ該書載スル所分テ二類トス即チ耶
 蘇ノ門徒ニ論示セシ談ト使徒ノ書翰ナリ○福
 音四傳ハ渾テアニクドウト論示ノナリ馬太等
 ノ四人ガ過去ノ事情ヲ話シ或ハ耶穌某事ヲ説
 キ或ハ刑ニ罹リ或ハ他ノ人ノ耶穌ニ語りレ或
 ハ某人ガ死セシ等ノ事ヲ記ス而シテ四傳ノ所
 載間異同アリ且夫嘿示ハ此傳記ニ拘ラズ然ル
 所以ハ各傳ノ説一様ナラザルノミナラズ嘿示
 ハ實事ヲ目撃セシ人ニ對シテ傳フベキ者ニア
 ラズ又事實ヲ聞知セシ人ニ對シテ之ヲ語り之

ヲ書スルヲ煩スベキ者ニモアラザレバナリ使
 徒行傳亦著述者ノ名ナキ書ニシテ耶穌ノ密説
 ニ屬ス其他嘿示録ト題セル啞謎ノ書ヲ除クノ
 外ハ使徒ノ名ヲ冠セシ書牘ヲ掇集セシ者ナリ
 當時ハ偽作ノ書信流行シテ其正シキ書信モ贋
 セタル者モ一樣ノ者ヲ為スハ尋常ノ風習ニシ
 テ其言辭ノ通漫ナル一ノ言中ニ多少二個ノ意
 ヲ含ム此ヨリシテ舊説ヲ資リ其寺ノ書ニ含ム
 意味ノ外ニ於テ名ヲ顯ハセシ人ノ性質ニ反シ
 タル宗教ヲ作クレリ其宗教トハ陽ニハ廉潔ニ

シテ清貧ヲ尊ズル如クシテ陰ニ許多ノ金額
 ヲ納ル、ヲ計リシ者ナリ○神ヲ敬禮スル者ハ
 升天スルト又之ニ反スル者ハ墮獄スルトノ靈
 魂ノ升沈苦樂アル二個ノ考案ヨリ贖罪金ヲ寺
 院ニ納ル、コトヲ創ム即チバルドン罪ヲ免ス
 コト法ニシテ禁ク法インダ法ルゼン法ス法ト
 ヲ賣ルハ歲入ヲ貪ル術ナリ夫此ヲ為ス源由ハ
 刑架ニ懸ケラレテ罪ニ代リタルト云フ説ヨリ
 生ゼリ要スルニ一人アリ他ノ人ニ代テ慈愛ナ
 ル事業ヲ遂ゲ果セシト云フコトナリ故ニ贖罪

ノ説ハ一贖罪ハ一人ノ為ス所ニ由テ衆人ニ代テ
 其事ヲ成レ遂グルヲ云乙思フニ刑死ノ事ハ抑
 末ニシテ主眼タル所ハ贖罪金ノ為メニ造設セ
 レ方策ナルベシ故ニ贖罪ノ考案論説ハ全ク利
 ノ為メニ設ケタリ其書ハ僧徒ノ著作ナルコト
 ハ確タレドモ其結構ハ何人モ為レ得ベキ書ナ
 リ彼輩が異蹟トシテ人ニ語ル者ニ以スレバ一
 層此贖罪ノ説ハ世ノ公理ト兩立シ難シ○然レ
 ドモ今日ニ於テ昔レ僧徒が贖罪ノ説ヲ造出セ
 レヤ不ヤヲ證スル史乘ナレ一假令證スル書冊ア

ルモ人或ハ余が擬造ヲ疑ハシ故ニ唯此説中ニ
 關シテ其事ヲ究覈セバ此説ヲ立テシ起原ハ專
 ラ利ヲ射ル為メニ純粹ナル工夫ニシテ徳義上
 ヲリ設ケシ公正ノ方ニアラザルヲ信ズ○譬ハ
 余が他ヨリ財貨ヲ借テ償却シ難キ時債主嘆テ
 余ヲ獄ニ下カサント云フ親戚友朋之ヲ憐ミ其
 身ニ擔任シ債ヲ還シテ遺サキニ至ルト云フ如
 キハ世其例アリト雖ドモ若シ余が罪惡ヲ干犯
 セバ其時ノ事態豈前ト同シカラシヤ公正ノ道
 理上ニ於テ罪ヲ犯カセシ者ヲ以テ罪ナレトス

ルヲ得ズ若シ罪ヲ犯スモ尚ホ罪ナキ者ニ均シ
 キヲ得ベシト定ムルトキハ天下ノ人民擧テ倫
 理ヲ廢テ廉耻ヲ壞ブルニ至ラン於是乎知ル此
 事ノ公正ニアラザルノミナラズ專恣ノ暴惡ナ
 ルコトヲ○此贖罪ノ説ハ負債ヲ他ノ人ヨリ償
 却シ得ルト同キ考案ニ基キ基督刑死ノ事ニ附
 會セシ贖罪ノ論ト合セリ恐クハ此ニノ贖罪説
 ハ一人ノ造リシ者ナルベシト云フ説是ナルニ
 似タリ今尅實シテ言ハゞ贖罪ヲ用ヒズ而シテ
 造物主ノ斯民ニ於ケル天地肇造以來同視等愛

親疎アルヲ見ズ是世間公許スベキ思想ナルベ
 シ○人若シ此罪ヲ贖フト不トニ由ラズ神ハ偏
 黨ナキヲ信セバ能ク天理ニ合シ倫理ニ悖ラザ
 ルニ至ラン然ラズレテ自ラ視ルコト法ヲ犯セ
 シ囚徒ノ如ク世ノ交リニ絶レシ如ク乞兒ノ如
 ク神ヨリ遠隔ナル所ニ遺棄セラレシ如ク思フ
 者多キハ全ク教弊ノ然ラシムルナリ人先ヅ自
 ラ其迷ヲ醒シ其教ノ尊重スルニ足ルトキヲ領
 會セバ必ズ心ノ所嚮ヲ變シ沈思熟考シテ然ル
 後チ徐ニ神ニ近ヅクヲ得ン若夫宗教ノミニ惑

溺世ハ悲哀シテ其生ヲ過了シ其身ヲ卑屈シテ
 禮拜ヲ行ヒ而シテ廉清寡欲天ノ思ヲ思ハサル
 ニ至ラン蓋シ此等ノ人ハ自身ヲ夷ト稱シ豐饒
 ノ地ヲ陋キ物トシ渾テ今世ニ在テ稟ル所ノ幸
 福ヲ聖ト呼ビ神ノ厚賜(即チ天養ヲ賤視シ常理
 ニ反戾スル所ノ後人構造止シ宗教ヲ信ズルニ
 孳カトシテ世ノ公正ナル理ヲ目シテ人造ノ理
 トス彼輩ハ道理ハ人ノ造ルヲ得ル者ト以謂ハ
 ルカ○彼輩ハ外貌ヲ飾ザルニ謙遜廉潔ヲ以テ
 シ世間ノ理ヲ賤視シ其中心ハ倨傲自ラ居リ萬

物ヲ誤認シ神息ヲ知ラズ而シテ全能主ニ對シ
 テ為ス所ヲ指示セントス故ニ其神ニ禱告スル
 ハ猶ホ神ヲ指揮スルガ如シ乃チ旱魃ニハ雨ヲ
 降スヲ請ヒ露雨ニハ晴ヲ放ツヲ求ム其他渾テ
 此ニ同じキ思想ヲ以テ神ヲ拜ス其禮拜禱告ハ
 是神ヲシテ其心ヲ草々其為ス所ヲ變ゼンメン
 トスルニ外ナラズ恰カモ全能ノ上帝汝ガ未ダ
 吾ガ為サントスル所ヲ知ラズト云フカ如シ○
 人或ハ云ハン然ラバ則チ世ノ人民ニハ神ノ命
 令モナク嘿示モナキ乎ト余之ニ答ヘテ云フベ

レ神ノ命令アリ嘿示アリテ一般ノ人民ニ知見
 せしむト○神ノ命令嘿示トハ天地萬物是ナリ
 故ニ人間ノ材カラ以テ之ヲ廣造ニ變易スルヲ
 得ス神ノ命神ノ意ナル所以亦以テ見ルベシ○
 人ノ言語ハ一國ニテモ漸ニ變遷スル者ナレバ
 何ゾ一般ニ告知スル方法ニ使用スルニ足ラン
 ヲ神基督ヲ降スハ全地球ノ人民ニ福音ヲ傳ヘ
 シムル為メナリト思フハ世界ノ廣表ハ幾萬里
 アル者ナルヲモ知ラザル無智無識ニシテ不學
 ナル人ノ思想ナリ是等ノ人ハ耶穌ノ信せし如

ク學者ノ發明スル所及ビ航海者ノ實測ニ反シ
 テ地ハ平坦ナルコト食案ノ如ク人共一端ヨリ
 他端ニマテ行クヲ得ル者ト信ゼシコト數百年
 代一般ノ思想ナリキ○基督ハ何等ノ方法ヲ以
 テ世界ノ民ニ何事ヲ知ラシムルヲ得ルヤ彼レ
 ハ特ニ一種ノ國語即チ制
 御來語ヲナスノミ然ルニ世
 界萬邦幾百種ノ語アリ語ノ互ヒニ通スル人至
 テ希ナリ而シテ之ヲ譯スルニ當テ苟クモ國語
 ヲ知ル者ハ一種ノ語ヲ他種ノ語ニ移スノ難キ
 ヲ知ル蓋シ本來ノ意旨ヲ失シ易キノミナラズ

往々其趣旨ヲ誤ルコトアルガ故ナリ殊ニ基督
在世ノ時ハ未ダ印書ノ術ヲ發明セズ夫渾テ為
サントスルコトヲ遂ケ果スハ初メノ志願後チ
ノ成績ト符合ス然ラザルトキハ志願アルモ遂
ケ得ザルナリ此事ハ人ト神ノ差ヒハ材力ノ際
涯アルト無キニ由ルヲ知ルベシ人ハ屢其志ヲ
達セザルヲ憂フ是材力限リアレバナリ然ルニ
無限ノ材力アル神何ゾ人ノ失錯アル如キアラ
ンヤ必ズ其為サント欲スル所ヲ為シ遂グベシ
然ラバ則チ各種ノ言語ノ一般ニ通セズ且ツ轉

訛レ易キ者ハ神ノ變易セザル命令ヲ告示スル
具トシテ用ユルニ適セズ神一般ノ人民ニ顯示
スルタメニ用ヒレハ人間ノ言語文字ニハアラ
ザルナリ○我輩ノ思想ニ合スル神ノ命及ビ嘿
示トスベキ者ハ天地萬有ナリ是人ノ言語ト關
係ナク萬邦一般ニ知見シ永世不易ナル者ナリ
此嘿示書即チ天地萬有ハ忘ル、能ハズ失フ能ハズ變
スベカラズ欺クベカラズ抑壓スベカラザル者
ナリ而シテ此書ヲ印行スル人為ラ假ラズレテ
地球一般ニ布及シ告示シ人ノ神ヲ知ルニ貴重

ナル物ヲ人ニ顯ス者ナリ○我レ人今神ノ材能
 ヲ想像スルヲ要セバ世界ノ洪荒ナルヲ以テ見
 ルベシ又人知ヲ以テ理解シ得ガル所ノ宇宙ヲ
 統宰シ星辰ノ運行ヨリ四時ノ推遷スル等順序
 變ゼズレテ毫差ナキヲ以テ知ルベシ又神ノ高
 大ナルヲ考察スルヲ要セバ地上ニ盈ツル所ノ
 萬物ノ衆多ナルヲ以テ知ルベシ其仁愛ヲ窺知
 セントスルヤ神ノ息ヲ知ル者モ知ラザル者モ
 皆同一視スルヲ以テ知ルベシ是ヲ以テ人々神
 ノ何物タルヲ詳知熟覽セント欲セバ經典ト稱

スル人造ノ書籍ヲ廢テ、造化ト名クル活經典
 ニ就テ究明セヨ○人ノ神ト名クル所以ノ者ハ
 人知ノ及バザル所(即チ萬有ノ元始)ナリ此元始
 ハ何物タルヤト云フニ人ノ能ク知ル所ニ非レ
 バ之ヲ疑フノ極神アルヲ信ズルニ至テ止ム又
 世界ノ終極ナキヲ理會スル尚ホ人ノ能ク知ル
 所ニ非ズ殊ニ將來ノ時ヲ前知スルニ於テヤ
 然レドモ此ト同キ理致ニテ我人ノ眼ニ遮ル所
 ノ萬物中各不可測ノ證ヲ有ス何トナレバ人自
 ラ其體軀ヲ造ラズ其父母亦自ラ其軀幹ヲ作り

レニ非ズ遡テ祖先ニ及ブモ亦皆然リ獨リ人ノ
 ミナラズ無數ノ禽獸鱗介艸木土石ニ至ルマデ
 其身ヲ自ラ造ル能ハズ是我人ヲレテ神ヲ信セ
 レムルノ確證ニレテ即チ目ニ見ル所ノ實體ノ
 元質即チ無始無終ナル一種ノ成立ヲ異ニスル
 元始アルヲ信ズルニ至ル者ハ萬物自ラ其身ヲ
 造ラザルト云フ證ヨリ生出スル真證ナリ而シ
 テ不易ノ元始ハ萬物ノ頼テ生々存々スル所ニ
 シテ人知ラ以テ理解スベカラズハ此ヲ呼デ神
 ト云フ○人唯此理ヲ推究シテ神ト名クル者ナ

リ試ニ此理ヲ抛却セバ何物モ到底理解スルヲ
 得ズレテ神ノ活經典ヲ讀ム人獸其別ナカラシ
 彼ノ宗教ニ拘束セラル、人民何ク世ノ道理ハ
 脱祛スベレト云フノ得ンヤ○舊新兩約ノ書中
 神ニ就テノ想像ヲ我人ニ傳フル者ハ約百書及
 ビ詩篇第十九章中ニ在リ其他ハ諳セシ者ナシ
 彼ノ約百書詩篇中ノ語ノニ獨リ宗教ニ惑溺セ
 ズ神ヲ稱スルニ天地萬有ヲ造リシ事業上ニ於
 テ他ノ書ニ拘ラズ世界ヲ神ノ嘿示ト觀ルコト
 ニ歸スレハナリ○人ハ萬物ヲ造クル者ハ自在

カヲ有スル神ナリトスル外何ヲ知ルヲ求メン
 苟モ此扱クベカラザルノ理ヲ信セハ倫理ノ規
 律隨テ生ズベシ○約百書中ノ文ハ人知ノ及バ
 ガル所ヲ思想シテ神アルヲ證スル其歸旨余が
 前ニ述ブル所ニ同シ○余約百書中ノ文此ニ引
 クベキ者ヲ諳記セズト雖ドモ其歸旨今余が論
 ズル所ニ合スル者一アリ曰ク「汝がハ神ヲ考索
 シテ之ヲ發見シ得サルヤ」汝がハ全能ノ主ヲ見
 出シ得ザルヤ○余約百書中何ノ章何ノ節ニ出
 ツルヤヲ知ラズ何トナレバ余經典ヲ持タザル

故ナリ然レバ此レニ箇ノ答ヲ要スル問題ナリ
 第一ニ汝がハ神ヲ考索シテ之ヲ發見シ得ザル
 ヤ曰ク然リ何トナレバ余自ラ我身ヲ造リシニ
 アラズレテ我存在ス他ノ萬象ヲ考フルニ亦自
 ラ造リ得ザルヲ知ル而シテ其森羅トシテ成立
 ス斯ノゴトク考覈セバ測カルベカラザル作用
 アリ其作用即チ神ナリ○第二問ニ汝がハ全能
 ノ主ヲ見出し得ザルヤ曰ク然ラズ何トナレバ
 余が見ル所ノ天地ノ造構ニ見ハル、所ノ神ノ
 材能ハ理解シ難キノミナラズ其見ル所荒漠遠

大ニシテ無數ノ世界一隔遠ニシテ目力ノ及バカ
ルヲ創造セシ所ノ材力中我人ハ其大園ノ一小
部分ヲ知ルノミナル故ニ○思フニ此等ノ問ヲ
起ス人ハ理ニ通セシト明カナリ其第一問ニ
答ヘ繼テ第二ノ問ヲ起シ得ベシ若シ第一問ニ
否ト答ヘバ尚ホ一層理解レ難キ第二ノ問ヲ起
スニ足ラズ此二個ノ問ハ異ナル義ヲ含ム前ハ
神ノ成立ニ關シ後チハ神ニ歸スル一理ヲ發明
シ得共ニ其全分ノ理ヲ知ル者ニ迄シト謂フベ
シ○余曾テ十二使徒ノ書ニ於テ神ハ何者ナル

ヤヲ考索スル一文ヲモ諳記セズ其書ハ主トシ
テ爭競ノ事ナリ而シテ彼ノ徒ノ心ヲ措ク所ハ
師ノ刑死以來快々煩悶ニ堪エザルヲ以テ其思
想スル所ハ凡テ清新ナル天空ノ氣ヲ呼吸スル
人民ヨリ却テ一小房ニ蟄居スル僧徒(僧徒ノ此
書ヲ偽撰セシヤト疑ハサルヲ得ズ)ノ鬱鬱屈セル
心思ニ善ク適合セン基督ノ門徒ニ諭示セシ語
ニ神ヲ信ズルニ著意セザル病ヲ療ズル藥劑ト
謂ツベキ所ノ者アリ由テ以テ神ノ材力ヲ知ル
一端ニ供スヘシ曰ク野ノ百合花ヲ見ヨ勞セズ

紉^〇世^〇ズト此語ハ約百書ト詩篇ノ前ニ引キシ言
 ニ比スレバ遙カニ劣レリ然レドモ其思量スル
 所ハ相等シ且ツ思想ノ中庸ヲ得ルハ基督ノ人
 タルニ稱ヘリ而シテ耶穌宗徒ノ基督ヲ信ゼシ
 ムル造構ハ我輩ノ者ル所ニ由レバ真神ノ教ヲ
 撲滅スル者ニ似テ神ヲ信ゼザル法トリ何トナ
 レバ其人ニ教誨スル言ハ人ヲ信ゼシメテ神ハ
 之ニ亞ク者トスルガ如シ故ニ其宗徒ノ信ハ神
 ヲ信ズルト信ゼザルトニラ合シテ成ルト雖ド
 モ其容量神ヲ信ゼザルニ屬スルヲ以テ多シト

ス恰モ薄暮ノ暗夜ニ於ケルガ如ク然リ而シテ
 其信ハ地球ト太陽ノ間ニ月ノ暗體ヲ生ズルカ
 如ク神太陽ト地球トノ際ニ救世主ト稱スル暗體ヲ
 生ジテ神教ヲ蝕ス之ガ為メニ道理ト呼ブ完全
 ナル軌道ヲ隱蔽セララル
 ○此暗體ナル光景ハ萬
 象ヲ顛覆シ人ヲシテ倒視セシムル如シ此ヨリ
 シテ真ノ神教ヲ化シテ人ヲ昏迷セシムル宗教
 ヲ播布セリ
 ○今究理學ト稱スル者ハ純粹ナル
 諸科ノ學ヲ總稱ス中ニ就テ星學ハ神ノ事業ヲ
 知ル學科中最モ重要ナル位置ヲ占ム是真正ノ

神學ナリ神ノ為セシ事業ニ寓ナル材力ヲ知ルノ門ナリ是神ニ關スル人ノ論説ト想像ノ學ニシテ神ノ事業ニ於テ神ノ學ト云フニハ非ズ人ノ事業即チ書ニ於ケル神學ナリ耶穌宗ノ世ニ流播セシヲ以テ神學本來ノ面目タル美ヲ掩蔽セシコト歎々ナラズ經典中民數記撰述ノ時代ヨリ尚ホ古キ所ノ約百書ト詩篇ノ第十九章ハ神學本來ノ結構ニ符合スバキ真理ヲ陳ブル者ナリ此等ノ理ニ蘊在スル證ハ天造ノ萬象ニ就テ神ノ材力ヲ知ルノ學ニシテ其書ヲ造レル人

ノ宗教ヲ信ズル大主意ノ茲ニ存スルヲ證スルニ足レリ今學科ト稱シテ自然ノ理ヲ發見スルノ域ニ進ム所ノ學術ト心思ヲ竭シテ其理ヲ究格シ人世必須ノ便利ト為ス百般ノ技藝ハ即チ此固有ノ理ヲ見出セシ者ニ過ギズ今日學術ニ由テ技藝ニ熟達セシ人モ概ネ其緣由ヲ知ル者鮮シ夫渾テ貴重ナル技藝ハ皆學術ヨリ生ズル者ニシテ學術ハ則チ技藝ノ父母ナリ

